令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 板櫃 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月 | 8日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学、英語)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (I) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を 把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調查内容

(1) 教科に関する調査(国語、数学、英語)

教科に関する調査(国語、数学、英語)

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語、数学、英語)の結果

Ī	本年度の結果	国語		数学		英語	
		平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
	本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
	全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

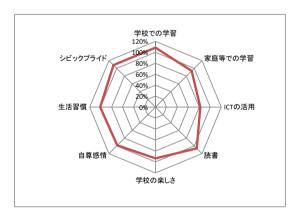
(2) 本校の学力調査結果の分析

	全体的な 傾向や特徴など	「我が国の言語文化に関する事項」に関する問題の正答率は全国平均を上回って いましたが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事	全国平均正答率との比較		
		項」に関する問題の正答率は全国平均を下回っていました。	同程度である		
国語	よくできた問題	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む問題や、観点を明確にして文章を比較し、表現の効果につい て考えることができるかどうかをみる問題の正答率が高い傾向にありました。			
	努力が必要が問題	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる問題や、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる問題の正答率が低い傾向にありました。			

	全体的な 傾向や特徴など	「関数」「データの活用」に関する問題の正答率は全国平均を上回っていました が、「数と式」「図形」に関する問題の正答率は全国平均を下回っていました。	全国平均正答率との比較	
			同程度である	
数学	よくできた問題	累積度数の問題や、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え判断の理由を数学的な表現を用いて 説明することができるかどうかをみる問題について、正答率が高い傾向にありました。		
	努力が必要な問題	条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができるかどうか をみる問題について、正答率が低い傾向にありました。		

	全体的な 傾向や特徴など	すべての領域において、正答率が全国平均を下回っていました。	全国平均正答率との比較	
14.5-			下回っている	
英語	F (7 3 7- 問題	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる問題や、日常的な自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる問題の正答率が高い傾向にありました。		
	努力が必要な問題	未来表現の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる問題や、「相手の行動を促す」という言語の 働きを理解し、依頼する表現を正確に書く問題の正答率が低い傾向にありました。		

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

【よい傾向】(肯定的に回答が全国平均を上回った内容)

- ○「国語の勉強が好きか」「読書が好きか」との問いに対して、どちらも約75% の生徒が肯定的に回答していました。
- ○「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」との問いに対して約70%、 「学習した内容を見直し、次の学習につなげることができていますか」との問い に対して、約80%の生徒が肯定的に回答していました。

【努力が必要な傾向】(肯定的に回答が全国平均を下回った内容)

○授業におけるPC・タブレットなどのICT機器の使用頻度が全国平均を下回っていました。また、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」との問いに対する肯定的回答も全国平均を下回っていました。

○「学校に行くのは楽しいですか」との問いに対して、約75%の生徒が肯定的に 回答しているものの、全国平均を下回っていました。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

ICT機器の使用頻度が全国平均を下回っていたことを受けて、朝自習の時間にGIGA端末を活用して学習アプリで自習を行う取組を始めます。また、今後も継続して、授業の中でICT機器やGIGA端末の活用を推進していくことで、生徒が視覚的に内容を理解し、主体的に学習に興味をもって取り組めるよう職員全体で教育活動を実践していきます。

② 家庭生活習慣等に関する取組

主に、定期考査前は学習計画表作りを行い、自らが見通しを立てて計画的に学習に取り組むよう指導しております。次の学習につなげるための学習内容の見直しを行っている生徒も多く、家庭学習の定着が見られます。